

# 生徒の 「決められない」を どうする？

今、未来社会を不安視する言葉が溢れていま  
す。一例を挙げるまでもなく、産業構造や生活風  
景が一変していくことは想像に難くありません。  
未来は予測できない…と言われますが、本当な  
のでしょうか。予測することではなく、未来を創造  
していく主体を育んでいくことが求められている  
のだと思います。自らに問いかけて判断すること、  
多様な考えや価値観に触れ、他者と意見をすり  
合わせながら実践&チャレンジしていくこと。た  
とえうまく行かなかつたとしても、他責にせず、  
振り返りながら次につなげていくこと。それは今  
日の社会においても同様ではないでしょうか。生  
きて働くことは、意思決定と合意形成の連続。し  
かしながら、世界情勢や身近な社会課題に目を  
向けると、決して容易なことではない、そんな現  
実を目の当たりにします。

では、学校現場ではどのような取組が求められるの  
でしょうか？ 文化祭におけるクラス企画の決定、修  
学旅行の自由行動の過ごし方、文理選択や科目選択、  
そして進路選択など。個人の意思決定や集団活動を  
通じた合意形成を求められる場面は少なくありませ  
ん。方で、進路指導の場面において、生徒の「進路選択・  
決定能力の不足」という課題が浮き彫りになっていま  
す。生徒自身の問題の他にも、さまざまな要因が考え  
られるのではないでしょうか。

変化の激しいこれからの社会を生き抜いていく生徒  
だからこそ、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」  
の3つの視点を掲げ、なすことによって学ぶ「特別活動」  
が要となり、これからのキャリアの基盤になってくると  
思います。新年度より先行実施が始まった特別活動の  
取組について、本特集が考える機会になれば幸いです。

山下真司(本誌編集長)

